

<その他、取組に特徴のある事例>

○非農家との連携による集落環境保全活動

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県南宇和郡愛南町 僧都			
協定面積 25.2ha	田 (97%)	畑 (3%)	草地	採草放牧地
	水稲・野菜	野菜		
交付金額 524万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員報酬		7%
		水路・農道管理費		5%
		農業機械購入費		31%
		多面的機能増進活動費等	7%	
協定参加者	農業者 43人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全体で作成済			

2. 取組に至る経緯

僧都集落は愛南町の北側に位置する中山間地域であり、集落内を流れる僧都川を中心とした水田地帯である。中山間地域等直接支払制度が始まる前から繋がり深い集落であったが、高齢化による担い手不足、遊休農地の増加等が顕著となり、平成12年度から本制度に取り組むこととした。

このことにより、集落内での定期的な会合等を開催し、生産環境の整備や担い手の育成などについて、集落全体の問題として取り上げるようになった。

3. 取組の内容

集落の中心部を流れる僧都川の約3kmの区間で、集落を上げての草刈活動や清掃活動を年1回ずつ実施し、約70人が活動に参加している。この活動により、僧都川が有する生態系の重要性を再認識してもらっている。また、子供たちにも川が地域の宝であると感じてもらうため「アマゴ放流会」を地元小学校と連携して開催し、農家が農業と水の関わりについて説明した後、児童がアマゴの放流をしている。

こうした水資源の確保に力を入れる一方で、農地保全にも取り組んでおり、農作業受託組織の立ち上げや地域全体での電気牧柵の設置等による獣害対策の実施、遊休農地の発生防止に取り組んでいる。



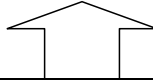
【総会】



【学校と連携した保全活動】

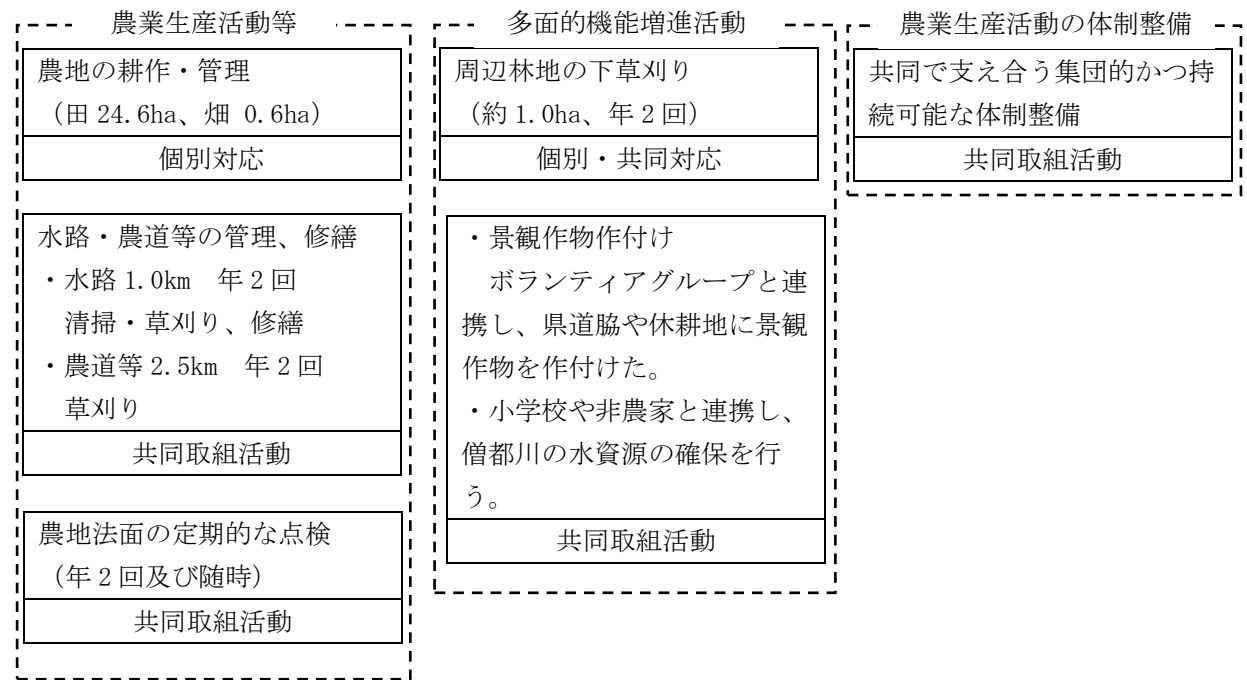
【集落の将来像】

- 非農家と連携し、集落環境の保全に努める。
- 学校と連携し、僧都川のビオトープの保全を図る。
- 高齢化、担い手不足による耕作放棄地の拡大を防止するため、定期的な集会等で集落内農地の状況把握に努めるとともに、新規就農者及び認定農業者の確保に努める。



【将来像を実現するための活動目標】

○地域農業の核となる担い手（新規就農者等）の確保・増加に努める一方、地域に即した農作物の栽培や生産組織の育成も進めていく。また、鳥獣被害の防止や環境保全活動を行い、地域資源を後世に残す取組を行う。



集落外との連携

- 非農家と連携し、集落環境の保全に努めた。
- 学校と連携し、僧都川のビオトープの保全を図った。

4. 今後の課題等

定期的な会合等により、集落内の環境整備や担い手の育成などの問題を集落全体の問題として取り上げることで、優良農地の保全を集落ぐるみで行うよう意識の統一がなされた。今後は、更なる高齢化が浮き彫りになっており、集落を守っていくためには担い手の育成が急務である。

【第 2 期対策の主な成果】

- 非農家と連携し集落環境の保全に努め、基幹集落道の維持管理と景観作物の植栽を行った。
- 学校と連携し、自然生態系の維持・向上に向けた取組み（アマゴ放流）を実施した。